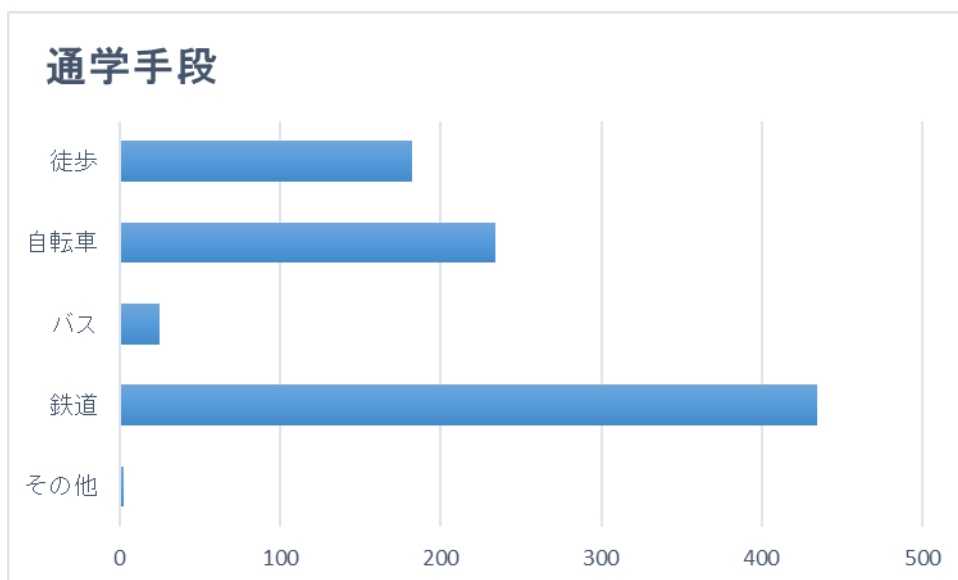
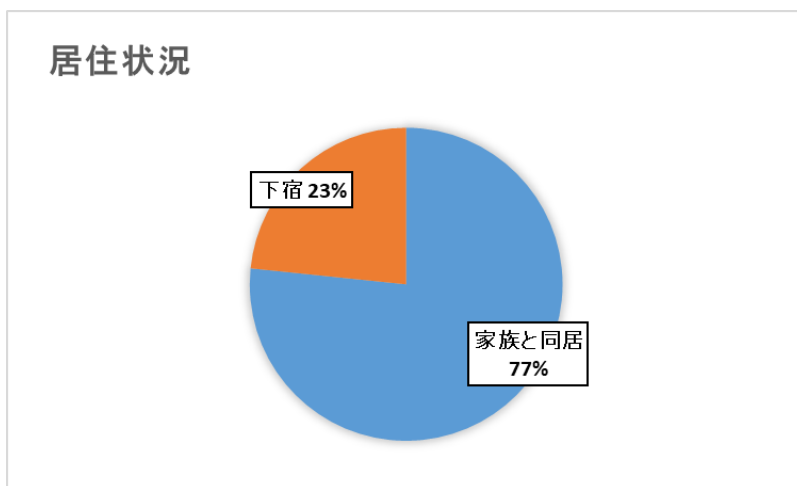
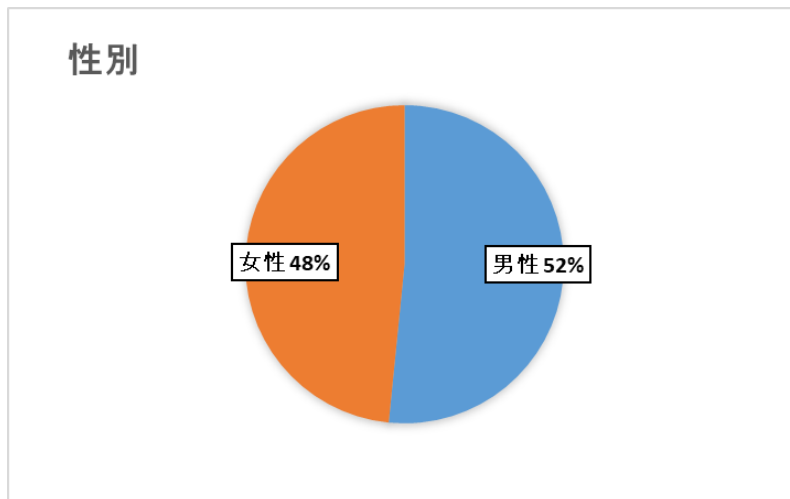
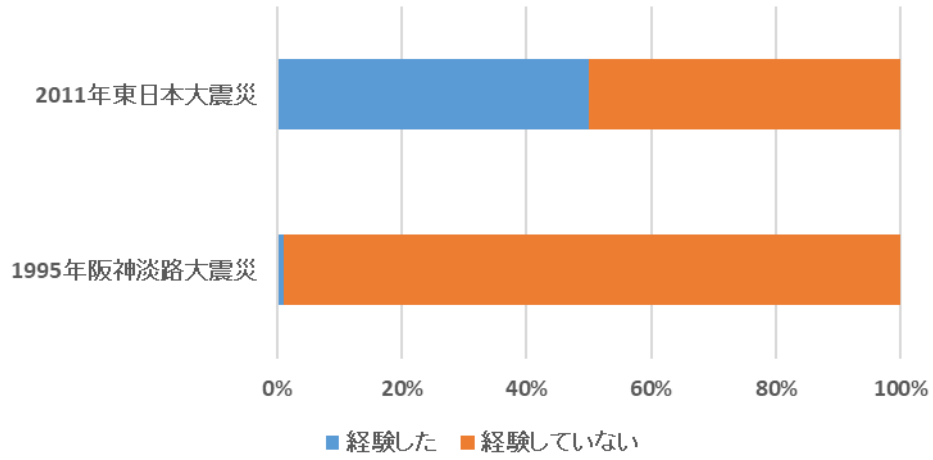


大阪北部地震行動アンケート調査（学生） 1次集計結果

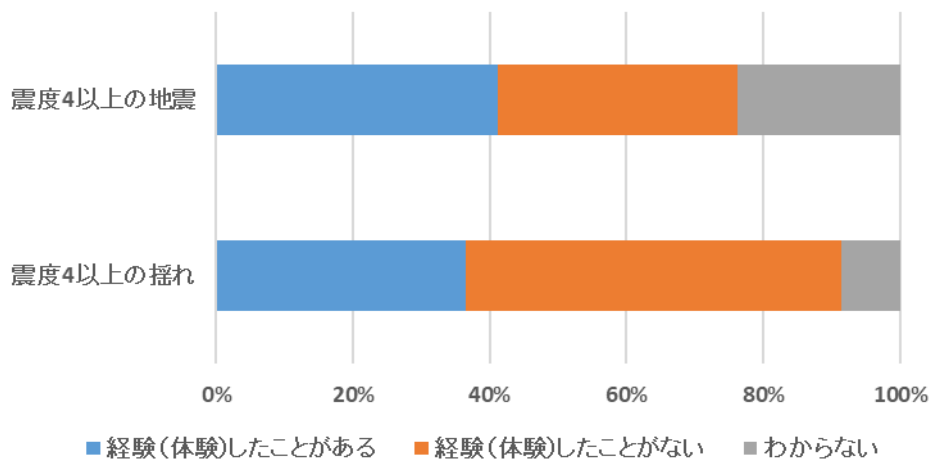
<回答者の属性>



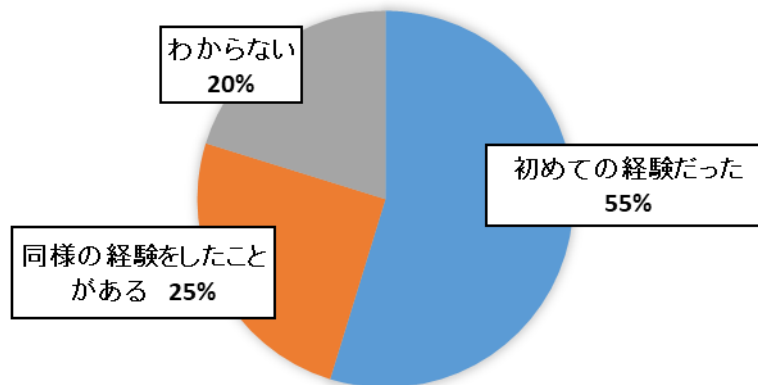
大地震の経験について

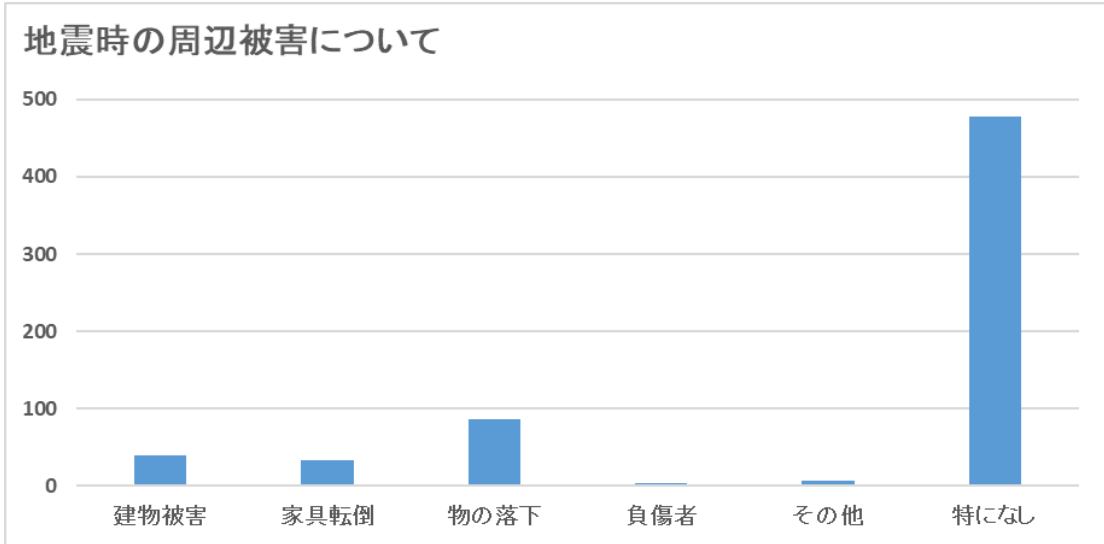


強い揺れの経験(体験)について

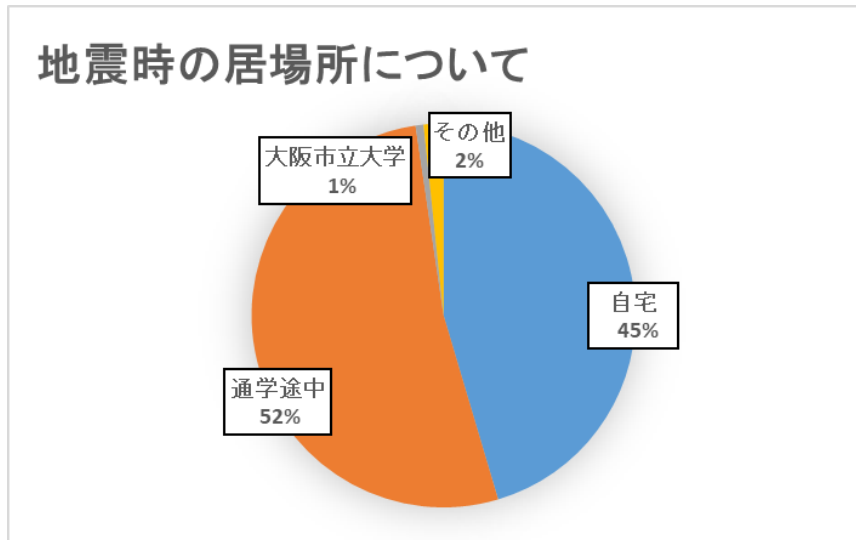


2018年6月18日の地震について

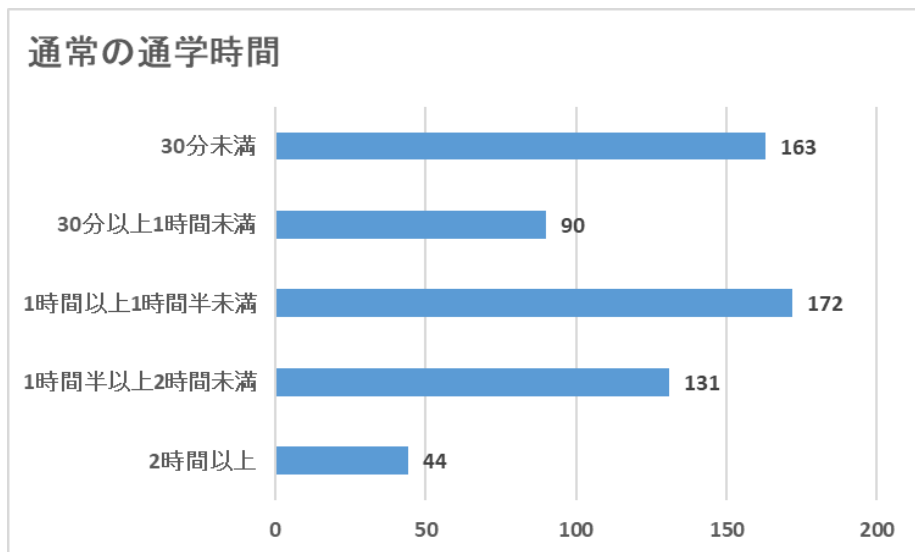




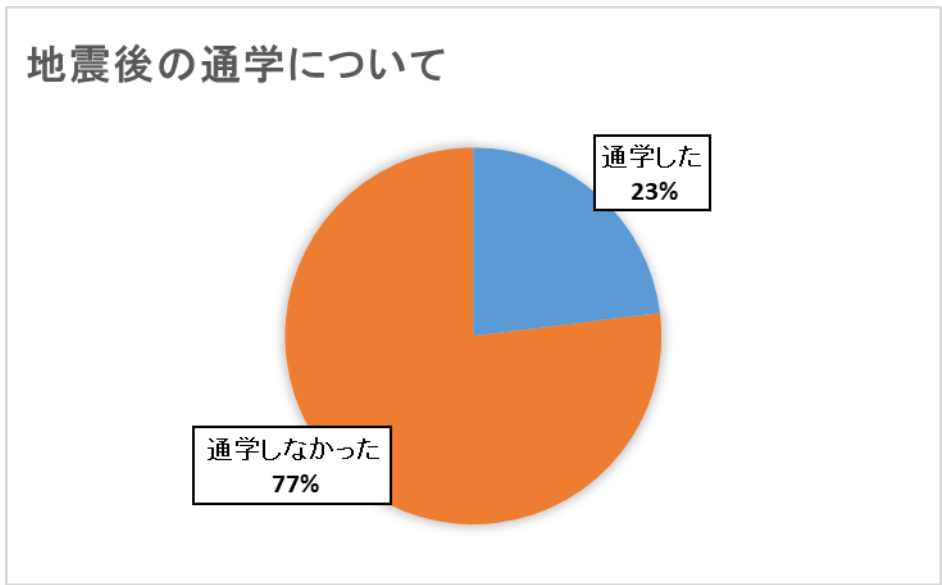
その他として「電線の揺れ」、「電車の停止」、「水道管の破損」、「火事」など



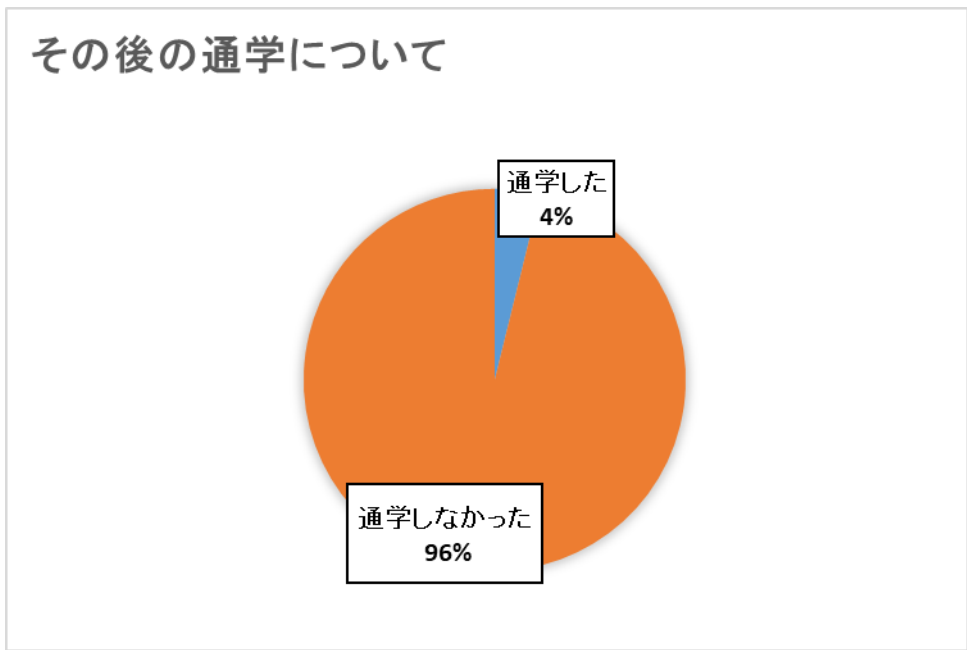
その他として「実家」、「友人の家」、「公園」など



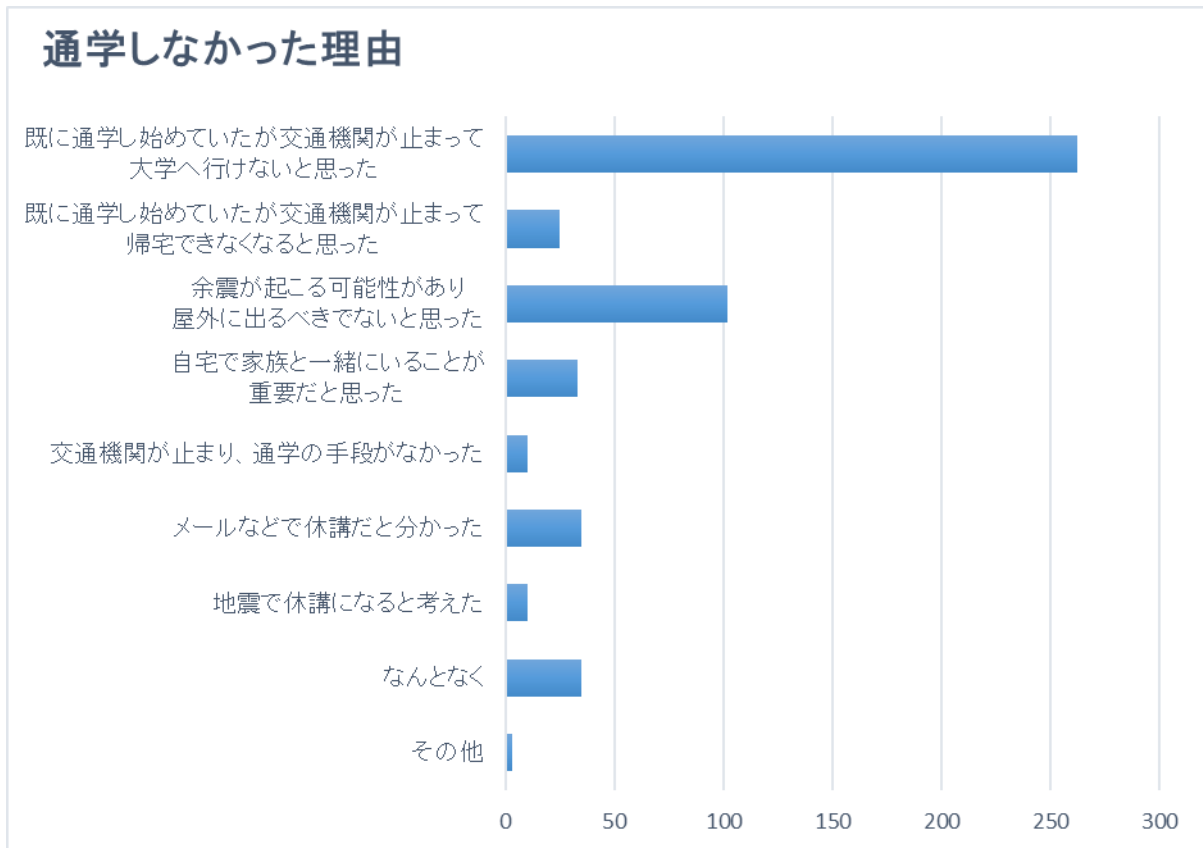
<地震時に自宅、その他の場所にいた学生の行動について>



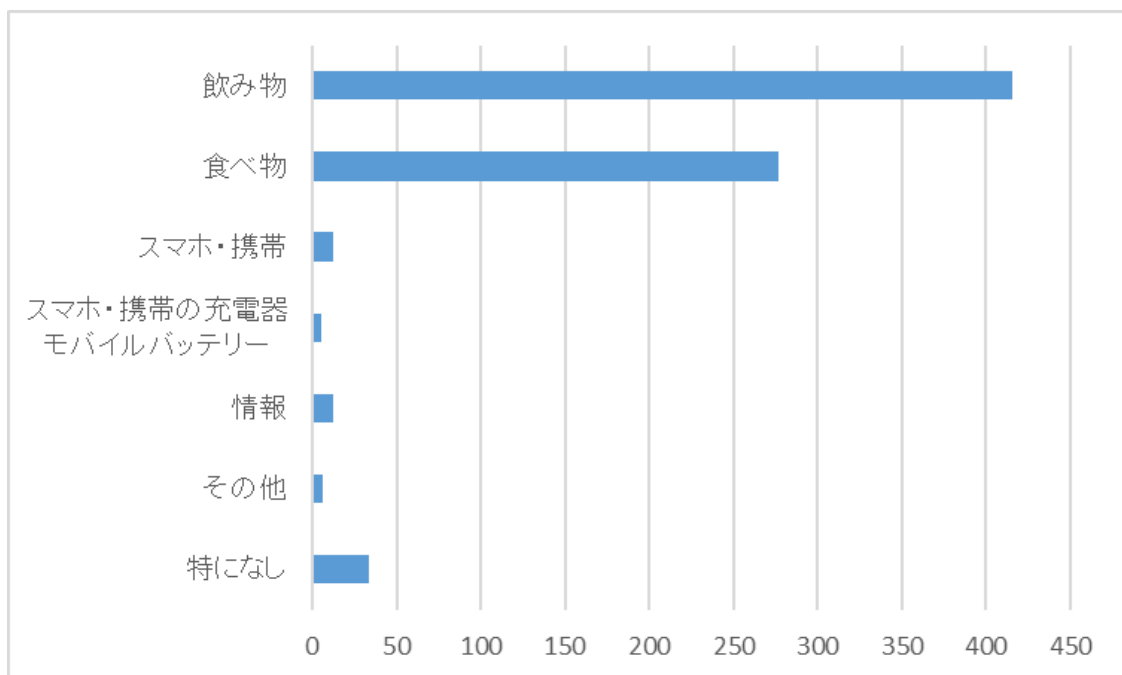
<地震時、通学途中であった学生の行動について>



<地震後に通学しなかった学生の行動について>

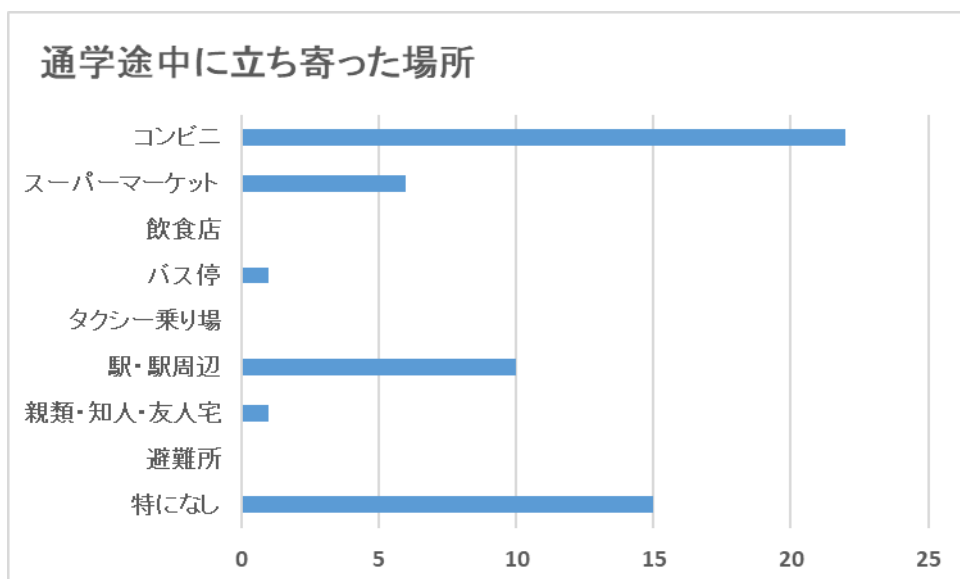
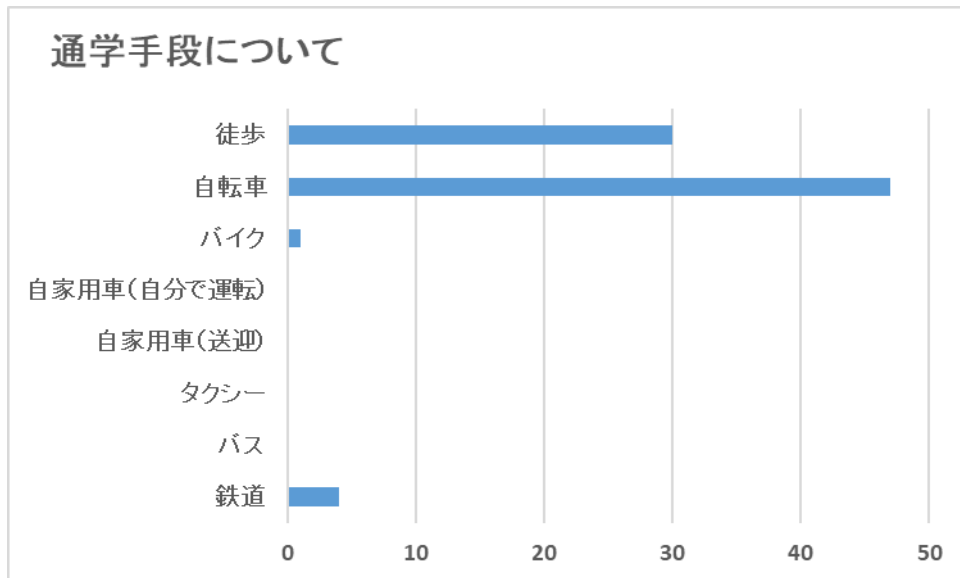
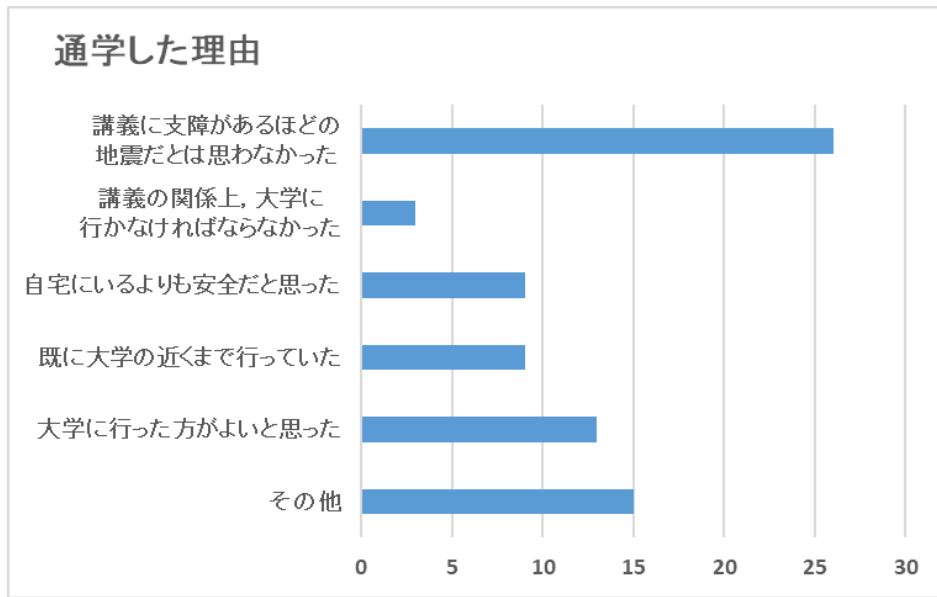


<地震発生直後に必要としたものについて>

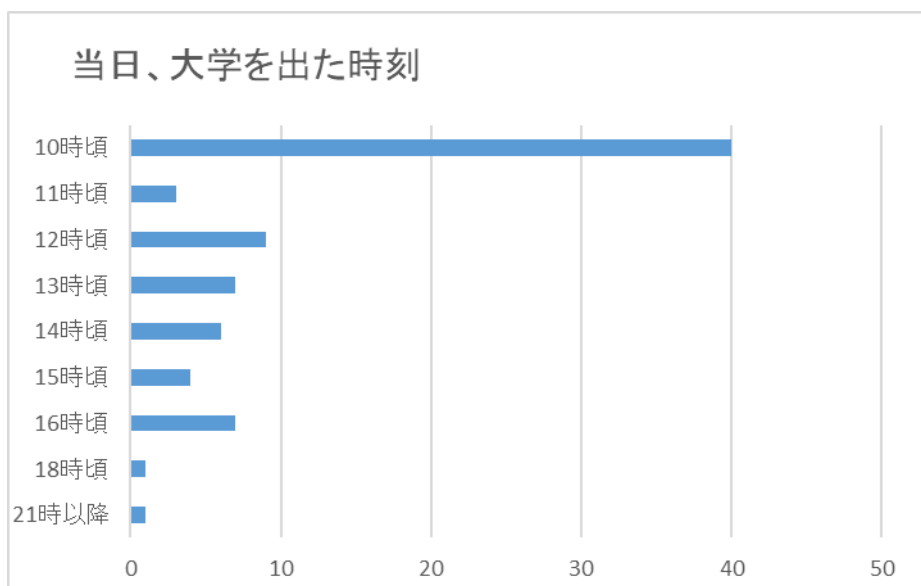
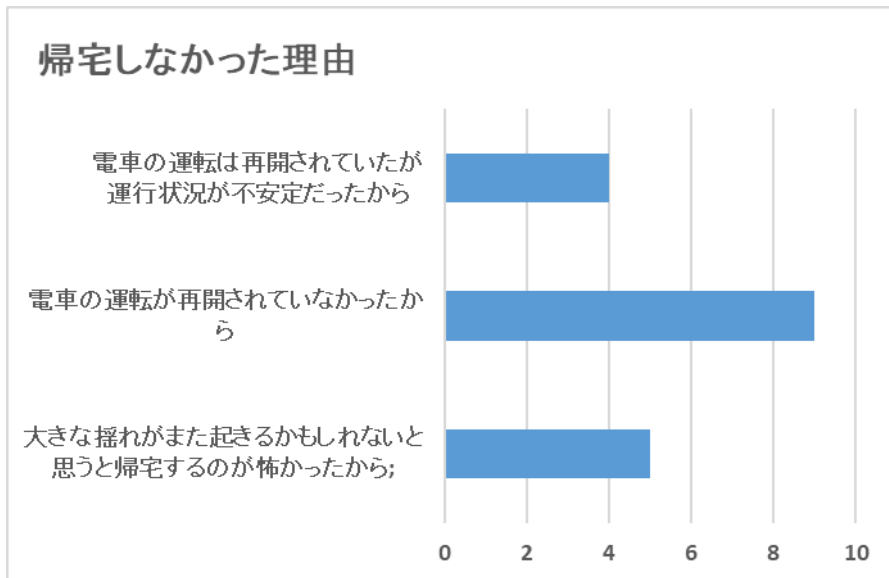
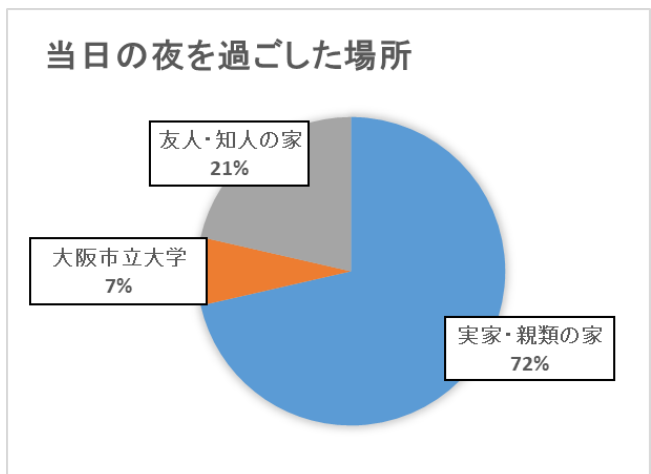
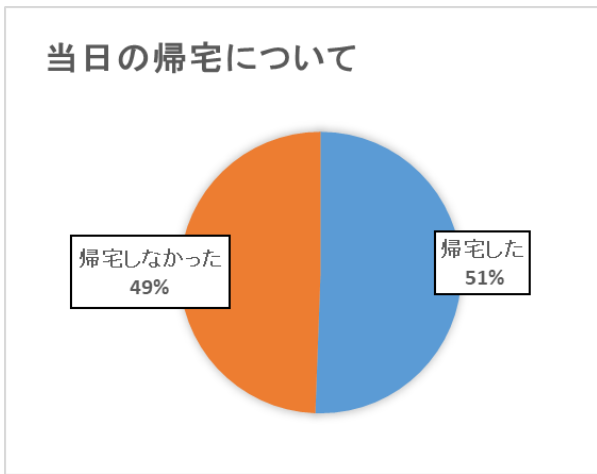


その他として、「トイレ」、「動きやすい服装・靴」、「WiFi」、「居場所」「現金」など

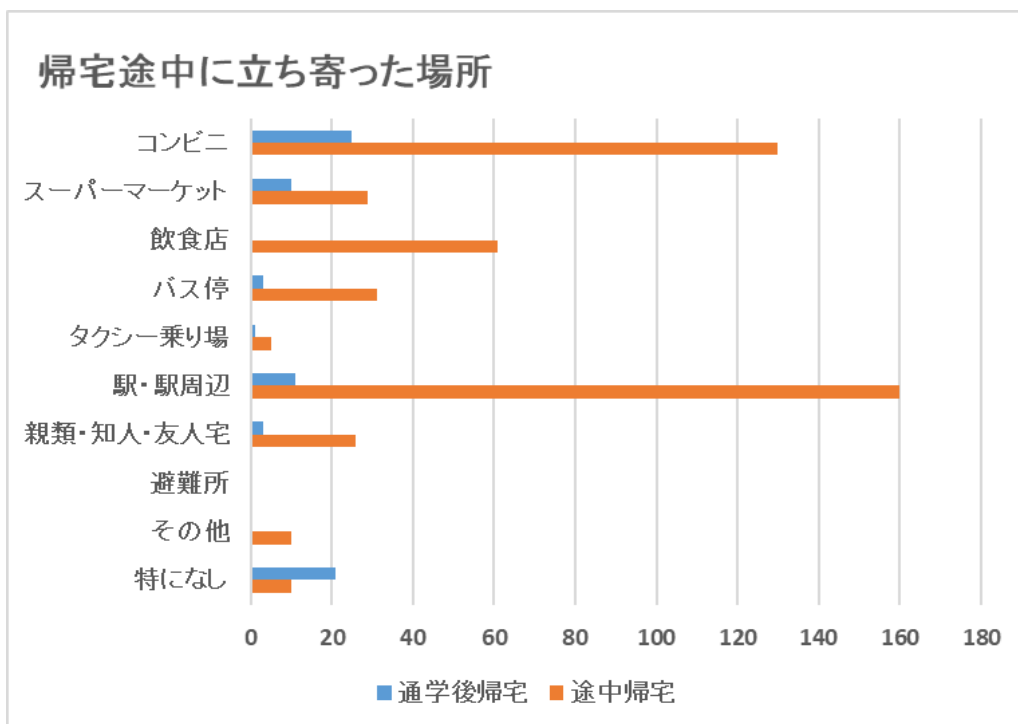
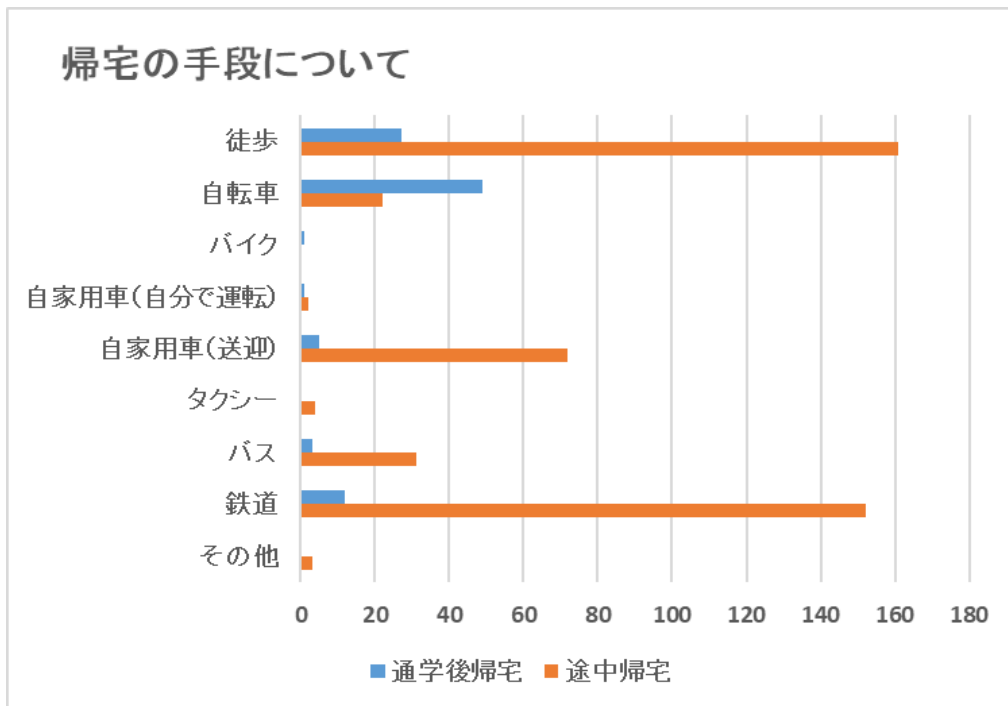
<地震後に通学した学生の行動について>



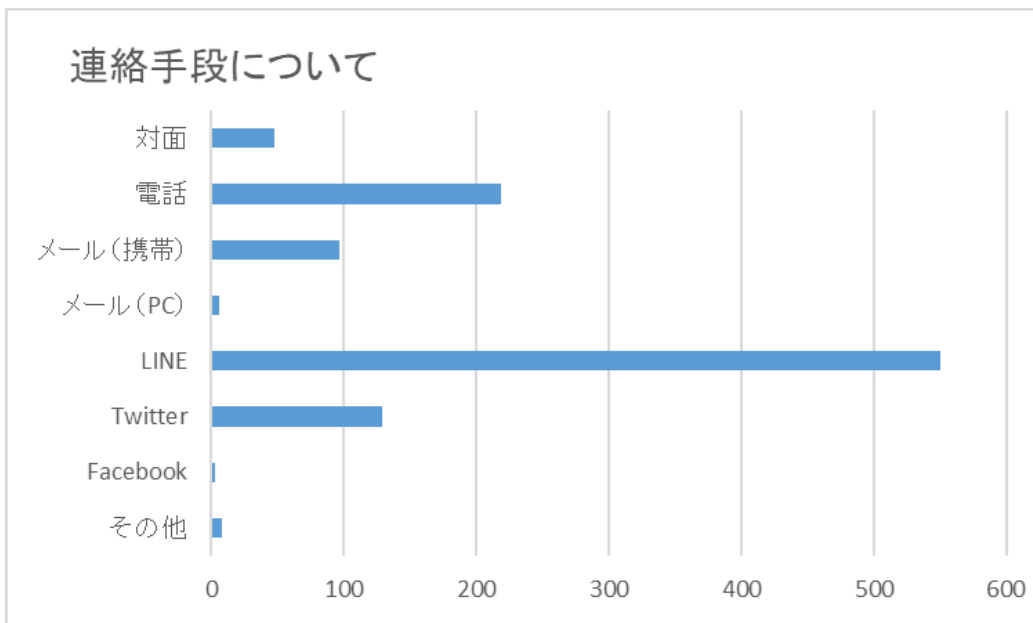
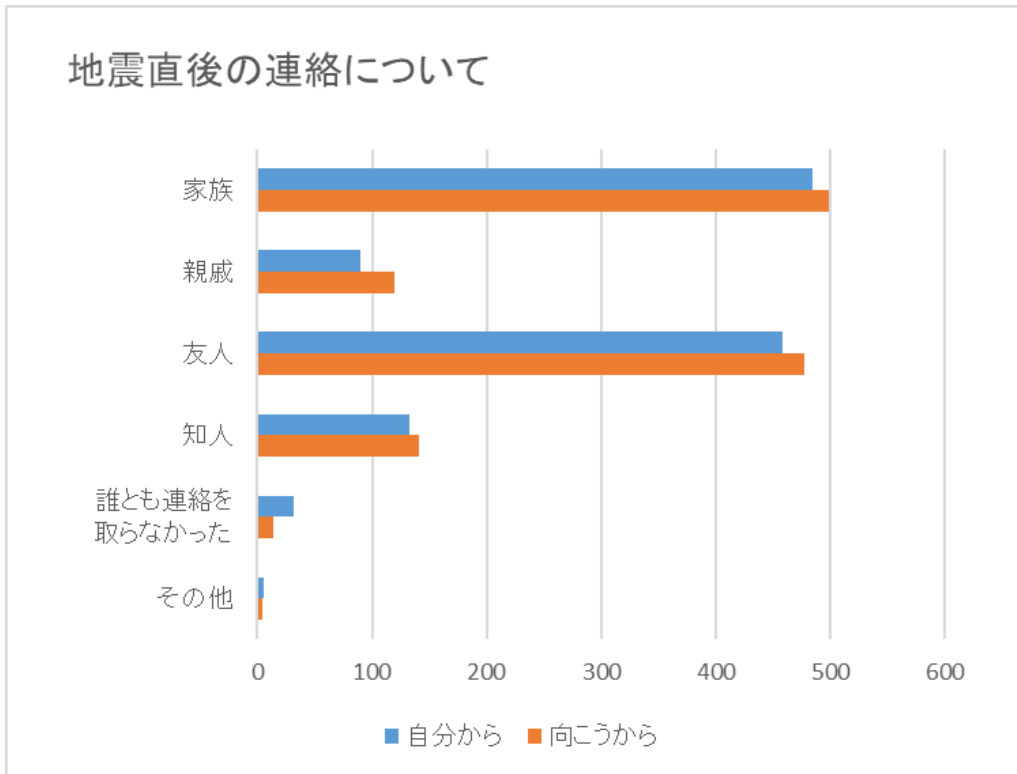
<当日通学した学生の帰宅行動について>

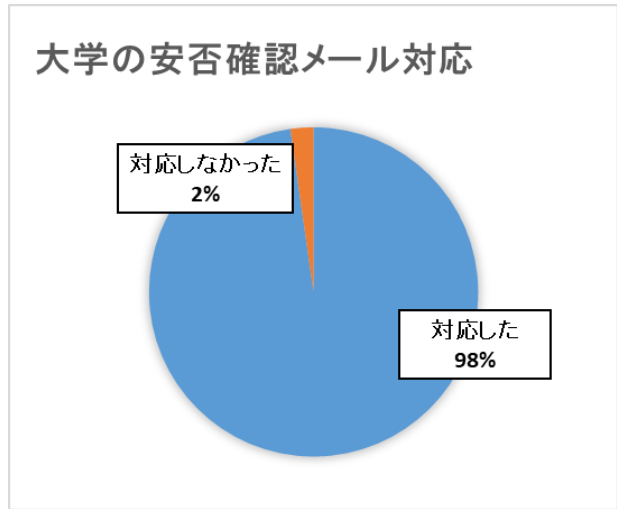
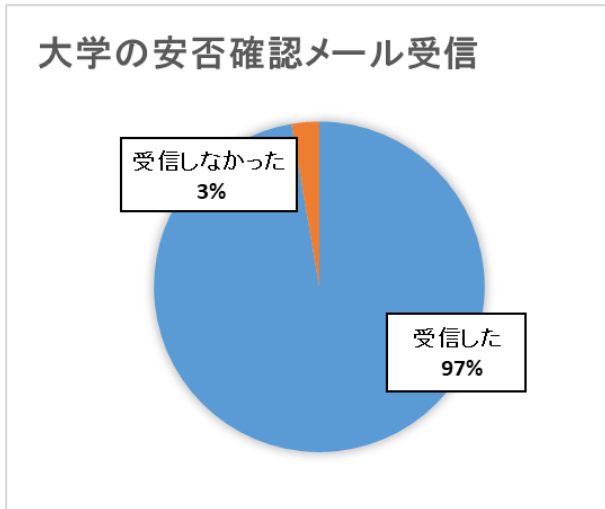


<帰宅手段と立ち寄った場所>

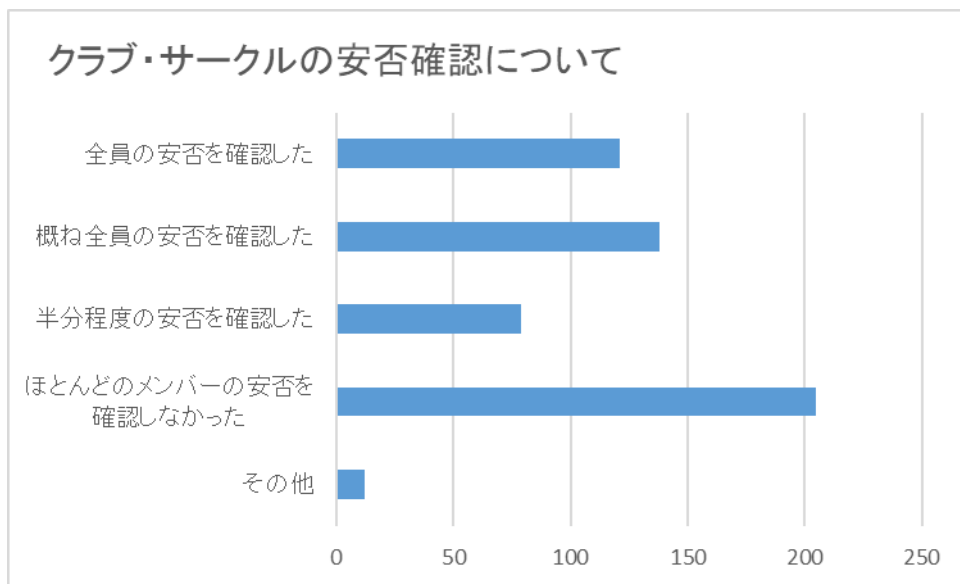


<安否確認について>

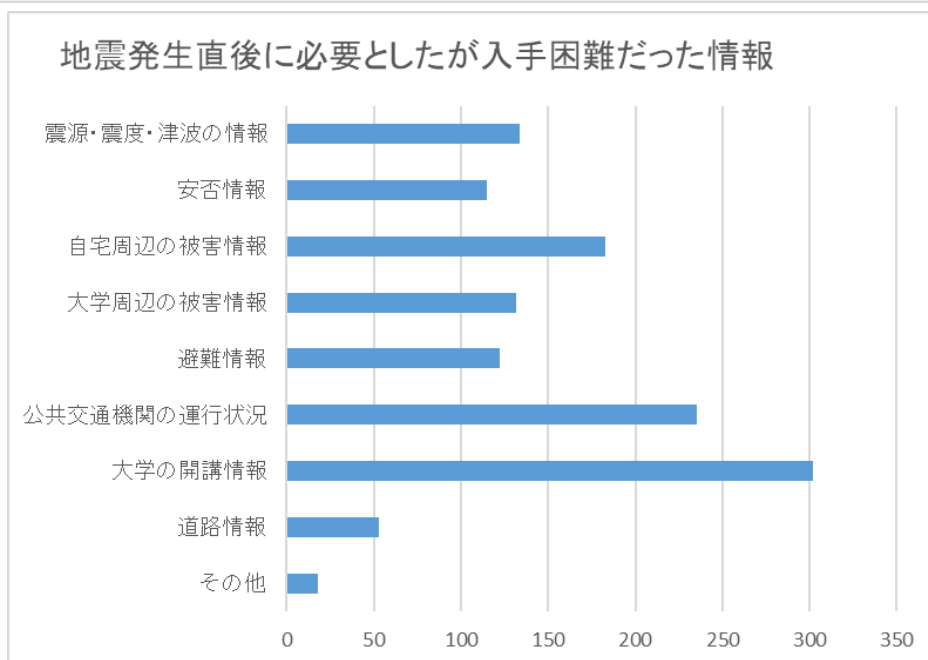
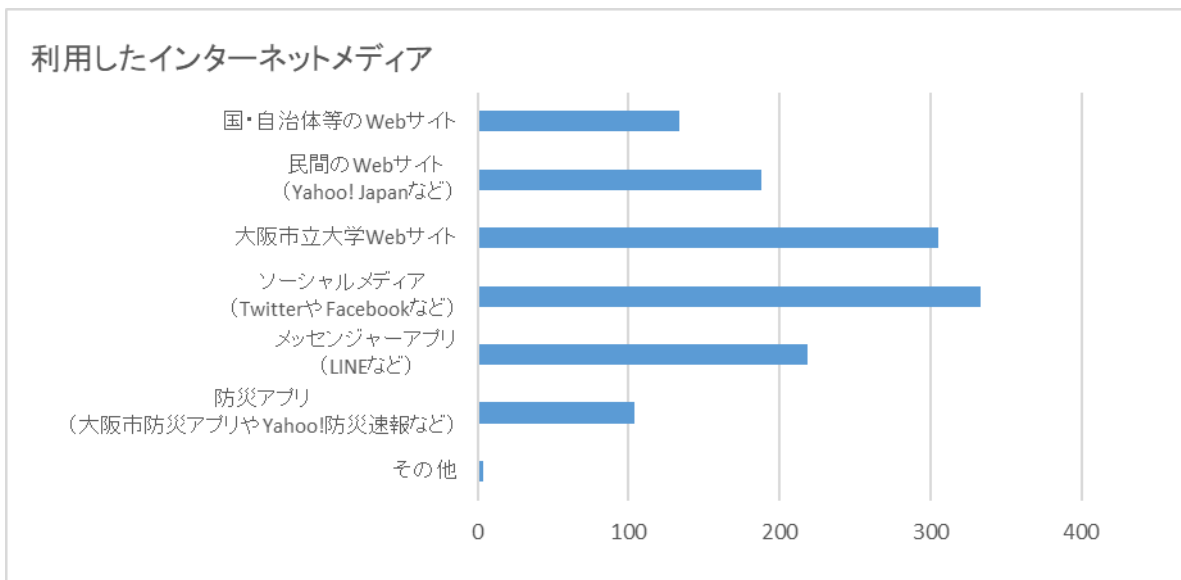
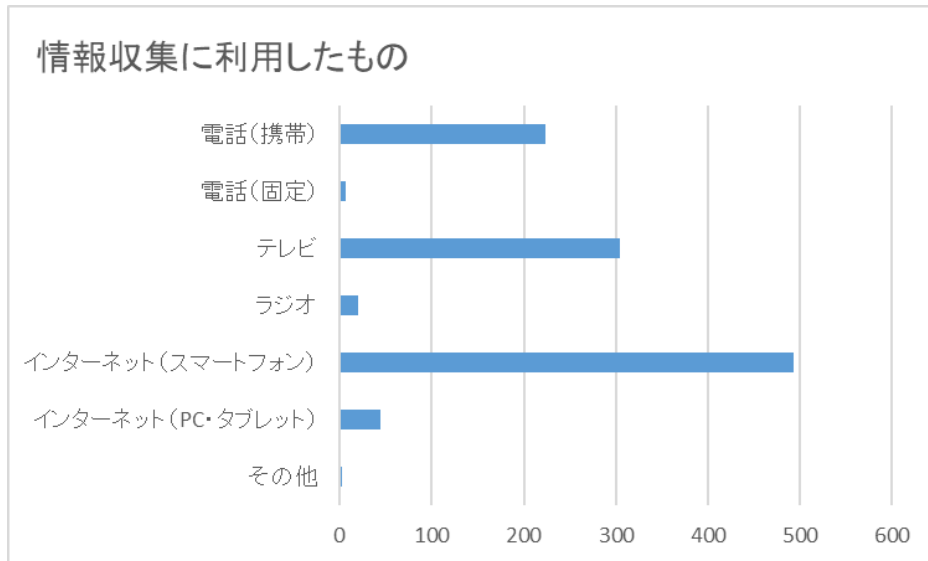




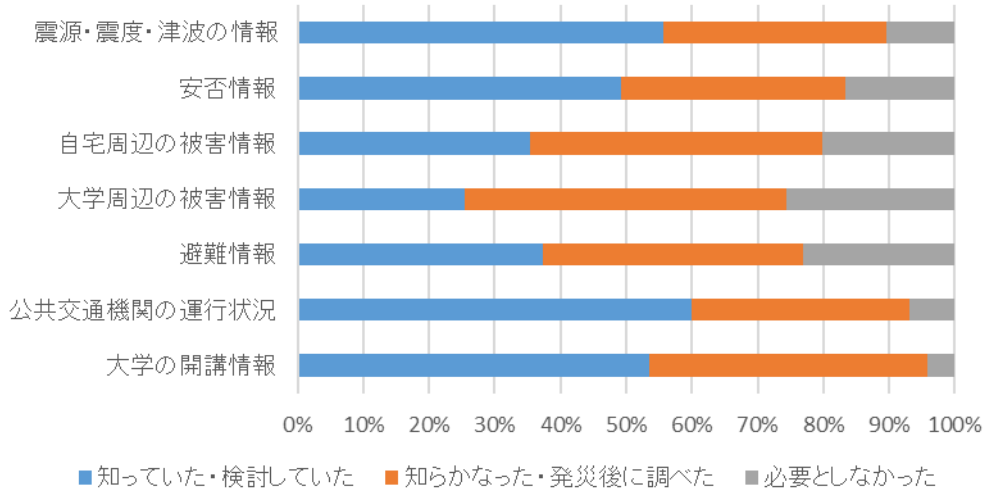
受信しなかった理由としては、「登録していない」、「知らなかった」など
 対応しなかった理由としては、「メールが届くのが遅かった」、「それどころではなかった」
 「面倒だった」、「する必要を感じなかった」など



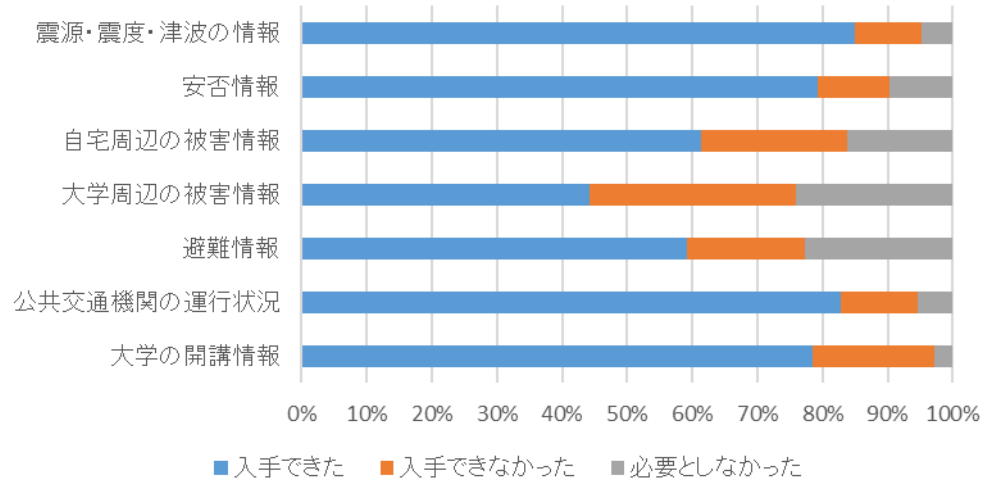
<情報収集について>



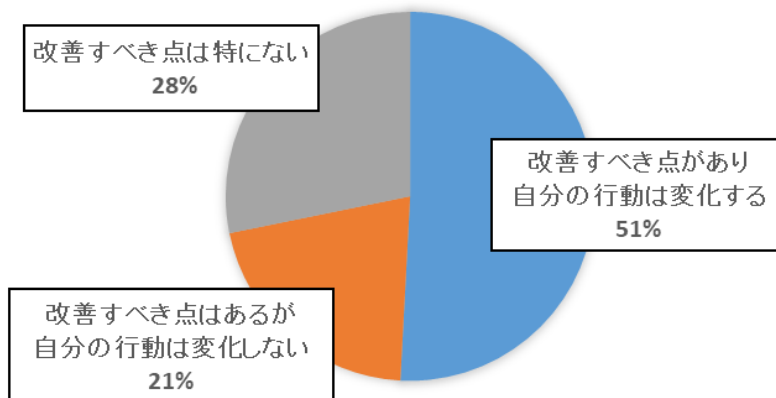
必要とした情報の入手方法について



必要とした情報の入手について



必要とした情報の提供方法の改善について



災害時の情報提供の改善点と自身の行動との関わりについて（自由記述）

・大学の対応、休講情報について

「休講の判断と連絡（情報提供）が遅い」という意見が圧倒的に多く、休講の情報が早ければ、その後の行動につながったとの回答があった。

また、「休講通知を待っている間に交通機関が止まって帰宅ができなくなった」や「休講の情報が早ければよいと思うが、どちらにしても帰宅できず行動には影響なかった」という回答があった。

大学の対応については、「余震の危険がある中、翌日の開講を判断するのが拙速では？」、

「災害時の休講判断は、通常の交通機関の運休などとは異なる基準を用いるべき」や、「すでに大学内にいた学生に対しての説明や指示がなかった」といった回答があった。また、

「安否確認メールが届いたのが夕方だった」という意見もあった。

・大学からの情報提供方法について

ポータルサイトでの情報提供について、サーバがダウンして確認ができなかったという回答と、メールやLINE、Twitterといった他の手段での情報提供を希望する学生が多かった。そのような手段での情報提供の方が、伝達・拡散が速く、各自の対応行動にもつながるという意見もあった。

また、ポータルサイトでの情報確認は、スマートフォンなどの電池消費が激しいため、非常時に向かないという声もあった。

<災害に対する備え・意識について>

